こども市民教育推進事業

「ＳＯＳを出してみよう～こころがつらくなる前に」
（山口県山陽小野田市）

【概　要】
受講希望のあった小学校の5・6年生（77人）に対し山陽小野田市の保健師が講義を実施。実施内容は、児童に対して自分自身が心理的負担を受けた場合や周囲の人の気がかりな変化に気づいた時の対処方法を身に付けるための講話、適切な相談機関について情報提供を行った。

【大綱の分類】
2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
6. 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
7. 社会全体の自殺リスクを低下させる
11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】
基本5-1. 児童生徒のＳＯＳの出し方に関する教育（ＳＯＳの出し方に関する教育の実施）

【事業実施年度】2019 年度

【事業予算】14,091 円

【利　点】
▼児童・生徒が悩みに対処する方法を習得することができれば、生きる力を育み、自己肯定感を高めることにつながるため、生涯にわたっての自殺予防の効果が期待できる。

【実施に至るまで】

背景・必要性・理由の概要

①厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より本市の、平成 25 年～平成 29 年までの 20 歳未満の自殺死亡者数が男女合わせて 2 人であったため、未成年者がこころの悩みに関する相談機関について正しく知り、適切な専門家につながることが重要であると考え、講座を実施することとなった。本講座については学校長会議でＰＲをさせてもらい希望のあった小学校 1 校で実施することとなった。

講義内容を考える上での工夫

①事前に担任の先生と打ち合わせを行い、当日行うグループワークのテーマについて事前に児童に考えてもらい当日の進行がスムーズに進むよう工夫した。
②クラスメイトからみた自分の長所を知ることで自尊感情を高めることが出来るよう工夫した。また、自分が思っている長所と他人から見た自分の長所が違えば、人によって感じ方が違うということに気づくことができるよう工夫した。
③リフレッシュ方法を具体的に伝えることで実践できるよう工夫した。
④相談先の一覧を配布し、手もとに残るようにした。

事業の具体的な取組

▼講座は 60 分間
・保健師による講座
・グループワーク
▼講座内容

・気持ちの種類について（嬉しい、イライラ、悲しい等）
・グループワーク（友達の長所を伝え合う）
・リフレッシュ方法を説明
・悩んだ時に相談すること、相談された時の対応方法、相談先について説明

【成　果】
▼悩みを抱えた時は、一人で悩まず誰かに相談することが大切とわかった、友達に相談をされたらしっかり聞いてあげようと思った、自分の長所に気づくことができた、悩みのある時の解消方法を大人になっても実行していきたい等児童から前向きな感想が多くあった。
▼また、健康づくり推進協議会委員からも、市内の全小学校で実施してほしいという意見もあった。

【補　足】
▼特になし

【課　題】
▼本事業について要望があったのは、小学校１校のみであった。さらなる本事業のＰＲが課題と考えられる。本事業は多くのテーマの中から各学校が講座を選ぶようになっており、1校が選べる枠数が決まっているため本講座の申込が少ないことにつながっている。
▼本講座は課が行っている出前講座（スマイルエイジング健康講座）にも含まれているため、令和２年度より養護教諭研修会へ参加し本講座についてのPRを行っている。

【事業種別】　若年層対策事業
【準備期間】　31日
【人　　数】　2人
【人口規模】　63,168人（住民基本台帳人口　2021.1.1現在）
【財政規模】　30,251,000千円　（2019年度　一般会計　当初予算額）
【自治体負担率】約36%　（山口県地域自殺対策強化事業費補助金）
【事業対象】　児童・生徒
【支援対象】　児童・生徒
【委託の有無】　無し
【実施主体・問合せ先】山陽小野田市健康増進課　TEL：0836（71）1814
Mail:hokenc@city.sanyo-onoda.lg.jp

【参考資料・文献】
▼特になし